



JIC インフォメーション

第 175 号 2013 年 04 月 10 日

年 4 回 1・4・7・11 月の 10 日発行

1 部 500 円

発行所: JIC 国際親善交流センター 発行責任者: 伏田昌義

<http://www.jic-web.co.jp>

東京オフィス: 〒160-0004 東京都新宿区四谷 2-14-8 YPC ビル 7F TEL: 03-3355-7294 jictokyo@jic-web.co.jp

大阪・ロシア留学デスク: 〒540-0032 大阪市中央区天満橋京町 2-13 ワキタ天満橋ビル 812 号 TEL: 06-6944-2341

ロシア・旧ソ連 国際交流誌

はりねずみのジェーニャ



ロシアのかわいいを探しに行こう!



旅行・留学のお問い合わせはいつでもお気軽にJICへどうぞ!
<http://www.jic-web.co.jp>

— ロシアの代表的民芸品、マトリョーシカ —

JIC ロシアセミナー

日露の異文化コミュニケーション

江口 満 (創価大学・准教授)・・・2-8P

本の紹介: ロシア語リアルフレーズ・・・8P

<連載>「エクメネの最果てへ」—サハ共和国—

岡本 健裕・・・12-15P

ジーマの「まちを歩けば」～冬のイベント・・・9-11P

ビグニーツィの長距離走

ピリタ川の競泳大会

レイゴ・アイス・ミュージック・フェスティバル

JIC からのお知らせ・・・16P

JIC では、Jクラブ(JIC 友の会)会員を募集しています。
年 4 回の情報満載のインフォメーションをお届けします。

JIC ロシア・セミナー／2012 年 11 月 17 日

2012 年 11 月、東京にて恒例のロシアセミナーを行いました。ロシア語同時通訳者として長年活躍され、現在は創価大学准教授としてロシア語教育に携わっておられる江口満先生に、「日露の異文化コミュニケーション」について話していただきました。

日露の異文化 コミュニケーション

江口 満(創価大学・准教授)

私は、ロシアと関わって、もうかれこれ 30 年になります。JIC の歴史とほとんど同じくらいです。これから異文化コミュニケーションの話をする中では、どうしてもロシア人の弱点や欠点なども話さないといけなくなってしまうのですが、これまでロシアと関わって生きてきて良かった、自分の人生が豊かになったと思っていることをまず最初に申し上げておきたいと思います。

自己紹介を兼ねて自分の話をしますと、私は 1980 年代の初め、まだソ連時代にモスクワ大学に留学をし、大学卒業後、モスクワ放送に就職しました。当時はまだソ連国営放送といって、外国向けにラジオ放送をする部署があり、その日本語課で 3 年弱アナウンサー兼翻訳の仕事をやっておりました。学生時代から通訳を目指してロシア語を勉強し、大学卒業後いきなりソ連という全く特殊な世界に入ってしまったので、日本の社会も知らないといけないうと思ひ、帰国後は日本の企業でロシア関係のプロジェクトに携わって 3 年ほど働きました。そして、1980 年代の終わりに通訳として独立しました。1986 年にゴルバチョフが登場すると、ソ連(ロシア)が俄然注目されるようになり、ひとつのブームになって、あつという間に通訳の仕事が増えました。テレビでも、ロシアを取り上げることが多くなり、同時通訳も必要とされるようになりました。ちょうどその時期に通訳として独立したので、スタートを順調に切ることができました。これもゴルバチョフのお陰です。その後、ゴルバチョフとは何回も仕事する機会があったので、ある時「ゴルバチョフさん、あなたのお陰で私は食べていくことができました」と、お礼を言ったことがあります。



留学やモスクワ放送での仕事、それから通訳の仕事を通して、数多くのカルチャーショックに出会ってきました。日本に帰ってきた時は、逆カルチャーショックも味わい、ストレスで皮膚病になったこともあります。今日は、そういった私の体験から日露の異文化コミュニケーションについてお話しをしたいと思います。

ロシアと日本、隣同士なのにすれ違い

日本とロシアは隣同士なのですが、仲のよい親しいお隣さんとは必ずしも言えないですね。

極東の町、ハバロフスクやウラジオストクは、日本海を挟んでちょうど対岸に位置しています。成田から飛行機に乗ると 2 時間半でウラジオストクに着いてしまいます。ウラジオストクの町を歩くと、「ああ、ここはもうヨーロッパだな」と感じさせる街並みが広がっています。そのヨーロッパの街並みは日本のすぐ隣にあるのですが、そのことに案外日本人は気づいていません。

もともと日本とロシアとの関わりが始まったのは、17 世紀の末頃からと言われています。ロシアが日本という国を知ったのは 17 世紀の半ば頃です。司馬遼太郎は、『ロシアについて』という本の中で、「ロシアと日本の因縁はシベリアにおける飢えと渴えから起こるのである」と書いています。当時、ロシアはシベリアまで国土を拡張したはいいいものの、シベリアで食糧や生活物資を供給していける所がない。さてどうしようかという時に、日本という国が極東にあると分かったわけでした。以来、ロシアは日本に関心を持ち続け、漂流民が日本から漂着する度に、彼らを送り返して交流を結ぼうとするけれども、うまくいかない。幕末にアメリカが日本を無理やり開国させて、ロシアもようやく日露和親条約(1855 年)を結びます。しかしその後も、日露戦争(1904-05 年)があり、シベリア出兵(1918-22 年)があり、戦後は北方領土問題があって、いろいろなマイナス面がクローズアップされてしまうことが多い関係が続いてきたと思うのです。

しかし、ロシアにおいては、日本はソ連時代からずっととても好意的に見られています。日本文化の“生け花”とか“折り紙”はよく知られていますし、柔道・空手の人気は言うまでもなく、日本の文学作品もロシアではよく読まれています。

す。ソ連崩壊以降、現在のロシアでは、寿司バーがモスクワだけで何百軒あるか分からないくらい沢山あって、日本料理も日本のアニメもブームになっています。だから、ロシアに行くと、日本人はとても心地よい思いができます。“日本人”というだけで、ロシア人は特別に好意を抱いてくれるわけです。

一方、日本ではどうか。日本人はロシア人に好意を抱いているかという、ちょっとクエスチョンがつかないと思わざるをえません。通訳をやっている、もう少しこの部分がお互いに理解できたなら、もっと話が進むのに、もっと仲良くなれるのに、と思う場面が何度もありました。

NO！と言えない日本人

私がモスクワ放送に就職したとき、一番最初に乗り越えなければならなかった課題は、「NO！」と言えるようになること（ロシア語だと「HET！」ですけれども）でした。一般的に、日本人は NO とははっきり言えずに、遠慮してしまいます。私は、就職した当時は張り切って、言われた仕事は何でもこなそうと思っていました。言われることは、「はい、わかりました」と全部受けていました。そのうち仕事の量がものすごく多くなってしまい、自分の体が悲鳴をあげてダウンしてしまいました。その時、上司の日本課長から「あなた、何で HET って言わないの？」と不思議そうに聞かれました。その時に初めて、「ああそうか、HET って言っているんだ」、(周りに迷惑をかけないために)「HET って言わないといけなくもあるんだな」と、自分でも理解できるようになりました。



それが分かるまでは、プライベートな面でも、なかなか HET と言えずに困ったことがありました。例えば、ロシア人の男性からデートに誘われたとき、「あなたとは行きません、行きたくありません」とはなかなか言えません。だから、一生懸命に言い訳をします。「いや、この日はこういう用事があって…」、「じゃあ別の日は？」、「別の日もちょっと用事があって」とか、いろいろ誤魔化します。ちょっとそういうふうと言うと、日本の男性は察してくれますよね。「あ、行く気ないんだな」と諦めると思うのですが、ロシア人の男性はそうじゃないのですね。

ある時、家に電話がかかってきて、「デート行かない？」と誘われました。いつものように「いや、その日はちょっと用事がありまして」と言ったら、「じゃあその次の日は？」、「その次の日もだめなんです」、「じゃあ来週は？」、「来週もちょっとだめです」、「じゃあ再来週は？」…と、もう延々と続きまし

た。仕方ないので「まだ予定が分からないのでまた連絡します」と電話を切りました。その時、たまたま遊びに来ていたロシア人の女友達が、会話の一部始終を聞いていて、電話の後、私に聞きました。「あなたは彼とデートに行きたいの、行きたくないの？」、「行きたくないに決まってるでしょ！」と答えると、「あなたの会話を聞いている限り、行きたくないという意味はまったく伝わってこない」と言われました。そうなんだと気がついて、それ以降、ロシアの女性がどういう風に男性に断りをするのか観察するようになりました。

女性の友達が街を歩いていると、「お茶飲まない？」と言って男性たちがナンパしてきます。ロシア人の女性は、顔を 180 度そむけて、「ふんっ！」と言って通りすぎるんです。「えー、そんな冷たい態度とっていいの？」って思うほどでした。それくらいははっきりしているのです。私はそこまでやる勇氣はないですが、市場に行った時に少し試してみました。市場では野菜や果物などを売っている人たちが、とてもにぎやかに売り込みをしています。「いくらだよー！買っていきな！」と言ってるところに近寄って、売り子さんに「いくら？」と聞くと、大体がものすごく吹っかけてきます。値段を聞いて、「ふんっ！」と通り過ぎようすると、必ず「ちょっと待って」と言って、「じゃあこれでいいから」と、大体半分くらいにディスカウントしてくれます。

ロシアでは交渉は H E T から始まる

私のロシア人の友達は、ロシア人と交渉する時、極端に言えば「交渉は HET から始まるのだ」と言っています。「NO！」と言われたら、日本人はすぐに「断られた。もうだめだな」と思いますが、ロシア人は「いやそうじゃない、そこから始まるんだ」と考える。そこから交渉をして妥協点を探っていくのがロシア人なのだというのです。ロシアから有名人が来日して、通訳で随行していると、デパートなどに行っても値引き交渉をするのがすごく好きなんです。「ちょっとまけてくれない？」と、絶対に言います。「いや、ここはデパートだから」と言っても、「いいの、いいの」と気にしません。「私はね、ロシアでは有名なアーティストなの、だから、まけてちょうだい！」って言う女性アーティストもいました。日本の店員さんは困惑してしまうし、通訳をする私たちも困ってしまうのですが、ロシア人たちは、お金を払いたくないからやってるわけではなくて、そのやり取りや駆け引きを楽しんでいるのです。ロシアでは、そういうやり取りや、駆け引きは日常茶飯事です。最初駄目と言われても、とにかくいろんな方法で話しを持ちかけ、いろんな手を使って、解決方法を見つける場合が多いんですね。日本では規則があればその規則のみ、例外は無しという場合が多いのですが、ロシアは必ずしもそうではないのです。

モスクワ放送を辞めて帰国する時、モスクワ放送は私の航空券を負担することになっていたもので、航空券は買って

れたのですが、当時のソ連は外貨事情が厳しかったので超過手荷物料金を負担しようとしません。上司の日本課長は、「あなたは日本に帰ったら日本の会社に就職するんでしょう。超過料金はその会社に払ってもらったら？」と、無茶なことを言うのです。私は超過料金を払うお金なんてなかったですし、モスクワ放送に払ってもらわないとどうしようもない状態でしたので、断固譲らないことにしました。

ロシアではお祝い、誕生会や送別会などをやる時は、主役になる人が必ず周りの人に振る舞います。主役になる人がお酒やケーキ、お菓子、果物などを買い込んで、皆に振る舞って祝うというのが習わしです。私も自分の送別会の日に、いろいろ買いこんで職場に行きました。そして、課長室に行き、「課長さん、今日は私の送別会なのでいろいろ買ってきました。皆さんにご馳走したいと思います。ただこれは皆さんで食べてください。私は課長さんに私の超過料金を是非とも勝ち取ってもらいたいのので、それまでは送別会に行かないでこの課長室から動きません。皆さんでどうぞ飲み食いしてください」と言って、居座りを決め込みました。そしたら課長さん、慌てふためいてどこかに出て行ってしまいました。しばらくしたら戻ってきて、結局許可を取って超過料金を全部払ってもらうことができました。ロシアでは、そういう面白い、融通のきく面があります。

強い仲間意識、濃密な人間関係

ロシア人は仲間に対してはとても情が深く、お互いに助け合って、関わり合う度合いが非常に高いです。だから、仲間か仲間ではないかというのはとても重要です。ロシア人は仲間を本当に大事にしてくれるという事は、何度も経験し、感じてきました。

モスクワ放送時代、ソ連という全く違う体制の中で暮らし、いろいろと辛い体験もしました。その中でやり抜いてこられたのは、そういう仲間意識を持ってくれたロシア人、すごく暖かいロシア人たちがいてくれたおかげです。ある時、いろんなことが重なって、自分の誕生日なのにとっても落ち込んでいたことがありました。誕生日を祝う気もなく、一人、家でくすぶっていたら、友達が押し掛けてきて、雑誌やきれいな洋服、食べ物、お酒などをいっぱい持ってきて、「自分の誕生日にそんなにくすんでちゃダメよ」、「お化粧して、きれいな服に着替えなさい。それだけで気分が全然違うんだから」、「誕生日なんだから、ちゃんと祝おうよ」と言ってくれるんです。

今年(2012 年)の夏にクリミア半島に行ったときの事です。付き合いのあるモスクワの大学の分校が、クリミアにあり、その分校に一度ぜひ来てほしいと言われていました。クリミアに行く前日、知人と電話でお話することがあって、「セヴァストーポリに明日行くんです。分校を見る時間はないですが、大体どの辺にありますか？ 市の中心ですか？」と聞いたら、

「何を言っているの。セヴァストーポリに行くのに、分校に行かないっていうのは許されませんよ。是非行ってください。ホテルに迎えに行くように全部手配するから」と言うのです。「いえ、夏休みだし、またの機会にします」と断りましたが、「必ず手配しますから。大丈夫ですから」と言って電話を切ってしまいました。

そして、ホテルに行ったら、出迎えの人がちゃんと待っていてくれるのです。分校に案内されて、副学長が応対してくださって、全部見学をさせてくれました。しかも街中を案内してくれて、昼食やらなんやら大歓待でした。こちらから頼んだわけではないのに、なんだか申し訳なく感じてしまいました。その後、モスクワの知人に電話をして、お礼を言ったら、「そんなの大丈夫。でもね、もうちょっと前に言ってほしいよね、前日じゃなくて。あなたもロシア人化したねえ」と言われました(笑)。

そういうふうにロシア人の仲間の中には、すごく善良な助け合う心が今も生きています。

笑わないロシア人

しかし、外から見るとロシア人というのは、なんとなくとっつきにくい感じがしますよね。例えば、「ロシア人は笑わない」、「ぶすっとしている」とか、よく言われます。こういうふうに見て



いるのは日本人だけかなと思っていましたが、欧米人もロシア人は笑わないと思っています。ゴルバチョフがリーダーとして登場した時、ソ連の政治家としては珍しく、

いつも笑っていました。彼がイギリスを訪問した時、ロンドンタイムスは「笑うクマ出現」と書きました。それくらい珍しいことだと思われたわけです。

ロシア人はなぜ笑わないのか。これは異文化コミュニケーションの本などに書いてありますが、日本人は礼儀として、知らない人に対しても笑顔で接します。しかし、ロシア人にとって“笑顔”は礼儀の一つに入っていません。むしろ、儀礼的な“笑顔”を嫌います。ロシア人が笑う時は理由が必要です。理由なく笑ってはいけないという風なメンタリティーがあります。ことわざにも「理由なき笑顔は馬鹿のしるし」とあります。

“笑顔”は、本当に心からの好意の現われでないといけない、儀礼であってはいけない、というのがロシア人の基本的

な考え方ようです。特に、ロシアの空港で、入国審査官や税関職員などはぶすっとしていて怖い印象を与えます。でも、ロシア人に言わせれば、真剣に仕事をしている時に笑ってられるかということになるのです。もっとも、最近は入国審査の係員は結構気を使ってにこやかに対応しようという努力を感じます(税関のほうはあまり変わりませんが)。

1990 年代の初めにモスクワでマクドナルドがオープンしました。当時、すごい人気で長蛇の列ができたことは有名で



すが、開店当初にこんなエピソードがあります。マクドナルドのマニュアルでは、店員は客に対して笑顔で対応しなければいけない。ロシア人店員もそういう教育を受けたわけですが、最初は「なんで知らない人に向かって笑わなくてはならないのか」と抵抗があったそうです。でも、私がマクドナルドに行ったときにはちゃんと笑っていたので、やっぱり抵抗を止めてマニュアルに従ったんだなと思いました。

酒が強いロシア人、でもちょっと触れられたくない

日本人がロシア人と出会った時、よく出す質問がお酒の話です。日本人は話のつなぎとして、「ロシアの人はお酒が強いそうですね」とよく聞きます。日本人としては、ロシア人はすごい特技を持っているという感じで、単純に聞いていると思うのですけれども、お酒の問題というのは、実はロシア人にとっては弱点なのです。そういう質問をされると、たいいてい曖昧な答えしか返ってきません。話題をちょっと変えたいという感じになります。実際にロシア人はよく飲みますし、お酒が大好きなんですけれども、でもそのことを少し恥ずかしく思っている節があります。だから面と向かって、「お酒強いそうですね」と言われると、いきなり弱点を突かれたような気になってしまいます。

ロシア人のお酒の飲み方は、「女性のために」とか、「健康のために」とか、何でもいいのですが、必ず何か一言話して乾杯の音頭をしてからみんなでクイッと飲み干します。しばらくは何か食べながら談笑して、また飲みたくなったら誰かが乾杯の音頭を取ります。乾杯の音頭をせずに飲むはいけないわけです。日本人はそんなことしないで、飲みたい

時にちびちびと飲みますよね。実は、その飲み方はロシアではアル中の飲み方という風に思われてしまいます。お酒の問題を弱点だと感じているから、乾杯の音頭を取って飲む、言い訳をしてから飲むというシステムができたのかもしれない。

ある時、私は日本の精神科医に同行して、ウクライナでアルコール依存症の治療に関するセミナーの通訳をしたことがあります。日本での治療についての報告の後、質問が出ました。質問者は「日本には“ヴィトレズヴィーチェリ”はありますか」と聞いてきました。私は、最初何のことかわからなかったもので、質問者に“ヴィトレズヴィーチェリ”って何ですか尋ねました。そしたら会場は大爆笑になりました。“ヴィトレズヴィーチェリ”というのは、ソ連時代、夜中に酔っぱらって千鳥足で歩いている人を警察が保護して留置所に入れます。その酔っぱらい用の留置所のことをそう呼ぶそうです。私がそれを「何ですか」と聞いたものですから、日本にはそんなものは無い、そのくらい酒を飲まない社会なのかと思われたのだと思います。

実際にお酒のせいで、ロシアの男性の平均寿命は低いと言われています。医学的にどうなのかは分かりませんが、ロシアの平均寿命を見ると、最近ようやく男性が 60 歳を超えました。1990 年代はロシア経済が混乱を極め、困窮の時代でした。それでもお酒が好きな人はどんなことをしてでもお酒を飲みたいわけです。オーデコロンや工業用アルコールを飲んで亡くなる人もかなりいました。90 年代は男性の平均寿命が落ち込んで、58.1 歳あたりで低迷していました。2000 年を過ぎてもずっと 50 歳代で、2006 年になってやっと 60 歳代になりました。経済が安定した頃です。

最近では、ロシアのビジネスマンなどは、仕事をしっかりするために飲酒量を減らしたり、強いウォッカをやめてビールを飲んだりする傾向が見られます。

ありのままに生きるロシア人

ロシアの魅力、ロシア人の魅力は何かというと、ロシアは多民族国家なのでこれは純粋に民族的にロシア人だけとは限りませんが、ロシアの人たちは日本人と比べて“ありのままの姿”でいることが多いのではないかと思います。「別に笑いたくもないのになんで笑う必要があるのか」、「自分が本当に好意をもって喜ばせたい、気に入られたいと思った時に笑えばいいじゃないか」というのも、“ありのまま”というロシアの特徴と繋がるのではないかなと思います。

現在、私は大学でロシア語を教えていて、毎年何名もの学生がロシアに留学に行きます。帰国して、ロシアが嫌いになったという人はいません。もっと居たかったとみんな言うんですね。何がそんなに良かったのかと聞くと、しばらく考えてから、「ロシアにいと何かホッとする。このままでいいんだ。こういう人もいる、ああいう人もいる。そのまんまでいいんだ

なっている気がするんです」という学生が多いです。私もそう感じますし、そういう意味でロシアにいと気持ち的に楽ですね。

人間臭いロシア人

また、ロシア人は人間臭い。寒い時に帽子をかぶらずに街を歩いていると、知らないロシア人のおばあさんに、「あんな、そんなことしたら風邪引くじゃない！帽子かぶりなさい！」と怒られます。私はアイスクリームが好きで、零下の日にはアイスクリームを食べていたら、「そんなことしたら病気になるっちゃう。今すぐ捨てなさい」と叱りつけられたこともありました。おせっかいだなと思う反面、こんなに私のこと心配してくれてるんだと思うと、なんだか嬉しくて、ありがたいなと思いました。

2011 年の震災の時も、ロシアの友達が真っ先に電話してくれました。震災当時、日本国内の電話はつながりにくかったのですが、海外からの電話はつながりやすかったようで、一番先に私が受けた電話はロシアからでした。職場から家に帰る車の中、渋滞で全く動かない、どうしようという時に「大丈夫か？」と電話がかかってきました。知り合いのあるロシアの篤志家は、日本の被災した子供たちを 60 人までなら受け入れられるから送ってと言ってくれました。すごいなって思いました。そういう懐の深いところがロシアにはあると思います。

私が体調を崩して入院をした時も、ロシア人の同僚や友達が、忙しいのに毎日のように見舞いに来てくれました。困った人に対して徹底的に助けてあげたいという気持ちが、今もロシア人の中には生きていますと実感しました。

ロシア生活で身についてしまったクセ

私はロシアの文化やロシア語をこれまで必死で勉強してきましたし、自分自身の考えを広げることもできましたが、その中でちょっと困る癖も身につけてしまったようです。私は何か物を落としたりすると、すぐ「オイッ」って言っちゃうんですね。ロシアではみんな老若男女「オイッ」って言うのですが、これは「あらっ」というような意味です。それが染み付いてしまいました。日本でも、この癖だけは取れなくなってしまうて、仕事中でも「オイッ」と言ってしまう。通訳中でも時々やるみたいで、たまに「江口さん、オイッって言っちゃったよ」と不審がられてしまうことがあります。

自分でも分かりませんが、もしかしたら私は若い頃から、とにかくロシア語を身につけるんだ、ロシアをよく知るんだと、必死に、ロシアのすべてを受け入れてきたので、そのせいなのかもしれません。どういうことかと言うと、日本人として外国とつき合う場合、自分は日本人なのだと、日本人としての品位、品格を保って、あくまでも日本人としてさまざまな外国の人とつき合って、日本人の習慣も大切にしていこうというの

が本来のありかただろうと思うのですが、私は自分がロシアを理解するために、ロシア的にならなければならないと、無批判にいろんなものを受け入れてしまったのではないかなという気がするのです。

江戸時代末期、1860 年に徳川幕府がアメリカに使節団を送りました。日本人の一行をマンハッタンで見かけたホイットマンが、日本人の堂々とした姿に感動して詠んだ詩があります。

西の海の向こう、日本から渡来した、
浅黒い頬の、二本の刀を差した、
居住まい正しき使者たちは、
無蓋の馬車に背をもたせ、無帽のままに、泰然として、
今日、マンハッタン街の街路を行く

私はこの詩を読んだ時に素晴らしいと思いました。国際社会で通用する堂々とした日本人が本当は理想的ではないかと思いました。私は、日本以外の習慣を学んでいくなかで、自分にとって便利なもの、やりやすいものばかりを自然に身に着けてしまったのかもしれない。

例えば、ロシアの宴会では、女性は絶対に男性にお酒を注いではいけません。女性がお酒を注ぐと普通の女性じゃないと思われてしまいます。男性が注ぐのが普通です。これはいい習慣だと思って気に入ってしまいました。しかし、日本でロシア人を受け入れる時、日本人とロシア人が会食する時も、やっぱり注ぐ気が起こりません。通訳だからやらなくてもいいというのがありますが、私は女性だからやらなくていいと思ってしまうのです。これは日本人男性から見るとどう映っているのか、ちょっと分からない怖さがあります(笑)。

言葉もそうです。英語や欧米の言語と比べて、日本語は省略が多いです。特に主語が省略されます。誰がという主語を省略しても話が成立します。私たちは、「誰が」ということを無意識に察しあっています。たとえば、川端康成の『雪国』の最初の書き出し。「国境の長いトンネルを抜けると雪国であった」。これにも主語がありません。英語やロシア語に訳す時、主語を付けしないと文章にならないので、常に文章に主語を付けて会話をしていると、とても便利だと感じるようになります。最初は日本人の感覚から言うと面倒だなと思いましたが、慣れてくると便利なわけです。なぜかというと、察しなくてもいいからなんですね。言葉通りに受け取ればよいので、便利になってしまいます。それに慣れてしまうと、日本人同士でずっと主語がない会話をしていると、時々、誰のことを言っているのか理解できなくなってきました。誰のことを言っているの？と聞いてしまうことがあります。

自分を失くさず、日本人らしく

今はグローバル化の時代です。皆さんも仕事や生活の中で外国人と何かの関わりを持っておられると思いますし、外国旅行に行かれることもあるだろうと思います。あるいは、道

で外国人から何か尋ねられることがあるかもしれません。そういう時に自分を失くさずに、日本人として、あくまで日本人らしく、接していく心構えを持っているのがいいのではないかと思います。

<質疑応答から>

講演後の質疑では、ロシア語学習についての質問がたくさん出されましたが、江口先生は実に丁寧に答えてくださいました。

質問 アメリカやイギリスに留学する人は多いですが、ロシアに留学するのは珍しいと思います。先生がロシアに留学するきっかけになったものは何ですか？

江口 なぜロシア語を始めたか。特に深い意味はありませんでした。私は子供の頃から語学が好きでした。英語はみんなやるので、みんながあまりやらない語学がやりたいと高校時代に考えていました。ロシアはエキゾチックでちょっと他の国とは違う感じがして、どこことなく物悲しいロシア民謡にも魅かれていました。

小学生の時、チャイコフスキーの生涯を描いた映画を見ました。エンドロールがロシア語で出てきた時に、生まれて初めてキリル文字を見て、暗号のように見えました。この暗号みたいな文字が読めるようになるといいなあって思いました。そういういくつかロシアとの小さな出会いが重なって、ロシア語をやり始めるようになりました。

もう一つ、私の性格と関係があるのですが、私には天邪鬼なところがあって、周囲の言うことにすぐにそうだと賛成したくないと思うところがあります。ソ連は、当時、鉄のカーテンに覆われていると言われていました。鉄のカーテンの向こうはどうなっているのか見てみたい、カーテンをめくってみたいという好奇心に駆られたということもありました。

質問 先生が通訳として、到達された方法や学習法などを詳しく教えてください。

江口 私は、実は大学の専攻はロシア語ではなく英文科でした。ロシア語は第二外国語でした。第二外国語でありながら、自分はロシア語の通訳になりたいと思っていました。大学のロシア語の授業は 2 時間しかありませんでしたので、当然ほとんどが独学です。どうしたらうまくなるのかといつも考えていました。発音をきっちり教えてくれる先生もいませんでした。とにかく考えて、考えて、ロシア語の巻き舌 (P) は、出来るようになるまでやろうと決心して、その当時住んでいた寮の廊下を歩く時は、巻き舌の練習をする時間と決めていました。歩きながらクァッってやっていると、友達から「気分悪いの？」って言われたりしましたが、そういう風になりふり構わずやっていました。今振り返れば、自分でどうしたらいいんだろうと、悩んで、悩んで、考えていたことがよかったなと

思っています。そのおかげで自分なりの勉強のやり方が身に着いたのではないかと思います。

学生には口がすっぱくなるくらい言っていますが、日本人は完璧主義が強いです。特に語学に対しては、間違っはいけないという気持ちが先行してしまって喋れなくなってしまう人がたくさんいます。語学は、間違っただけ上手になれません。間違っただけに気づくと印象にのこりますから、しっかり記憶するわけです。だから、「どんどん間違いなさい」と学生には言っています。言語に対して、ロシア人はとても寛容です。外国人がロシア語を一言でも喋ろうものなら、とても誉めてくれます。ですから、間違っても構わないんです。とにかく喋っていくこと。全ての五感を使いこらして記憶をしていくのです。語学の勉強は、これだけしてればいいというものはないと私は思います。これもあれも全部、やれるものは全部やる。だから、手も目も口も耳もすべて使う。手で書いて、耳で聞いて、目で見、口に出して、記憶する。もう体で覚えていくしかないと思います。本だけで覚えていても、いざという時、口からは出てきません。

日本人は語学に関して、「話せないから、完璧にはできないから」と、一歩引いてしまうところがありますが、全く引く必要はありません。それを常に自分に言い聞かせてください。Здравствуйте (こんにちは)、До свидания (さようなら)、Спасибо (ありがとう)、Извините (ごめんなさい)、くらい覚えておけばなんとかなります。そういう気持ちで取り組んでいただきたいと思います。

質問 学生の頃、何時間くらい勉強されていましたか。お仕事をされるようになってからは、一日何時間くらい勉強されていましたか。

江口 何時間っていう風には計っていなかったので分かりませんが、とにかく出来る限りやっていました。机に座ってやるのも大事ですが、そうじゃない時間、“すきま時間”も結構活用して勉強しました。語学というのは、すきま時間を使うことでかなり効率よく勉強できると思います。歩いている時だってテープを聞くことができますし、ぼそぼそと口に出しても、ちょっと変な人だなと思われるくらいです。料理しながらでも台所のあちこちに単語を貼っておけばいいわけだし、どんな所でも工夫すれば勉強はできます。語学はマスターするまでには時間がかかります。一番時間がかかるのは、聞き取りです。おそらく海外に行って一番苦労するのは聞き取りではないかと思います。聞き取りができないときでも、分かったふりをしないで、何回でも聞き直してください。わからないときは、もう少しゆっくり話してくださいと言えいいのです。外国人なんですから、遠慮する必要はありません。

質問 以前、モスクワに行く飛行機の中で知り合った方がいます。彼が言うには、ロシアは結構訛りがひどいって言うん

ですね。特にブラゴベシェンスクあたりになると、モスクワとはまるで違うと言うのです。先生はどのように思われますか？

江口 私は専門的に方言を勉強したわけではありませんが、地域によって、少しずつ異なるところもあります。例えば“ミルク”は、モスクワだったら“マラコー(молоко)”ですが、地域によっては“モロコー”と O は O(オー)と発音するところもあります。極東の人に言わせると、モスクワが方言だ、訛っているんだと言います。でも、モスクワの人は認めません。

しかし、一般的には、日本の方言に比べたら、ロシアはもうほとんど方言なんて無いに等しいくらいの差しかありません。

ただし、言語表現の仕方は様々です。十人のロシア人に聞いたら、おそらく十人とも意見が違うんじゃないかと思えます。日本語からロシア語への翻訳の仕事をする時は、ネイティブの人にチェックをしてもらうことがあります。そうすると、何人かのロシア人に見せたら、絶対にそれぞれ違う直し方をしてきます。他の人が直してきたのを、これは違うと言ってまた直します。だから、結局、それぞれの違いがあるということは分かりますが、正当なロシア語がどの地域なのかというのは、私には何とも言えないですね。

質問 ロシア語には規範的な発音というのはいないのですか。たとえば、フランス語ですと、パリで生まれてパリで育った、高等教育を受けたフランス人が喋るフランス語が標準的な、規範的なフランス語なわけです。規範的な発音、規範的な文章というのは当然あると思うのです。あれだけ広い国で、時差だけで 11 時間もある国で、ほとんど同じ発音をしているわけですから。

江口 標準ロシア語という意味では、一応、テレビのニュースでアナウンサーが話しているロシア語を基準に考えればいいのではないかと思います。アナウンサーが話しているロシア語は、例えば、実際にモスクワっ子が普通に会話しているのとも、やっぱりちょっと違います。でも素晴らしい発音をしています。

質問 通訳の仕事がされていて、分からないロシア語の単語は出てくることはありますか？

江口 ありますよ。通訳というのは日常会話を通訳することはほとんどなくて、何かの専門の会議が多いので、専門用語がたくさん出てきます。通訳で大変なのは、事前に専門用語を勉強することです。専門用語や内容をある程度理解していないと通訳をすることはできません。毎回、テーマ別に単語帳を作って、それを参考にしながら通訳をします。分からない単語があったらどういう意味ですかと聞き返します。その専門会議にはたいへんなお金がかかっているわけですから、間違えにはいきません。

(文責;編集部)

新刊紹介

気持ちが伝わる！ ロシア語リアルフレーズ BOOK

セルゲイ・チローノフ
吉岡 ゆき 共著
研究社 1,900 円(税込)

「ご好意に感謝します」「ほっとした」「もったいないね！」「よく言うよ！」「元気出して！」「圏外だ」「へんなこと言わないでよ！」「うらやましい！」「解散！」などなど、日本語で普段日常的に使っているフレーズをロシア語で言うとうなるか。本書には、普通に使う、どれも“気持ちが伝わる＝伝えることができる”リアルフレーズばかりが紹介されています。

私は大学でロシア語を勉強して留学もしましたが、恥ずかしながら、この本に集められたフレーズはどれも知らないものばかり。この本を眺めているだけでロシア語のフレーズが、頭と体に自然と吸収されていく気がします。「こんな表現の仕方があったんだ」、「ロシア語ではそう言えばいいんだ」、「それも基本的な単語で十分だったんだ！」とうれしい驚きの連続です。

使われている例文は、ロシアで遭遇しそうな状況やロシアの慣習にそった内容を踏まえて、使い方を具体的にイメージしやすいのですらすらと読み進めてしまいます。読んでいて、思わず、くすりと笑みがこぼれることもしばしばです。

会話のなかでのちょっとしたあいづちや、相手への同意、励まし、お礼、そして小さな反論など、ふとこんな表現を挟むことができたなら、より生き生きとした会話ができそうだなと思いました。早速、私のカバンにも一冊しのばせてあります。眺めているだけで面白くて、しかも使える表現ばかりです。本書の冒頭にもあるとおり、「未知数の多い巨大な隣国ロシアを理解するためのベスト・ツール、それはロシア語」です。ロシア語日本語音声の CD も付いています。

(JIC 東京、柳沢昭子)



《ジーマの町を歩けば》 冬のイベント

ドミトリー・トカチェンコ

エストニアのタリン在住のジーマ君から今回は冬のイベントにちなんだ記事を 3 本送っていただきました。ロシアやバルト諸国の冬は、もちろんマイナス 10 度～20 度ととても厳しいのですが、しかし、その中でも人々は寒い国ならではの楽しみを見つけて闊達に生活しています。さて、どんな楽しみがあるのでしょうか。

ビグニーツィの長距離走

先日、友達のエジックから電話あり、ペテルブルグと一緒に車で行こうと誘われました。エジックは途中で長距離走に参加して、終わったらそのままペテルブルグに行って友人のところに泊まるつもりです。タリンからペテルブルグまでの距離は 400 キロ以上あり、途中で国境もあるから、彼は一人で車で行きたくなかったので、僕に声をかけたというわけです。僕にもペテルブルグに友達がいるし、ちょうど用事もあったので、エジックと一緒に出掛けることにしました。

長距離走はエジックの趣味です。彼は、タリン、ペテルブルグ、ストックホルムなどでマラソンに何回か参加したことがあり、走るのが大好きです。旅行の 1 週間前にエジックから連絡があり、知り合いのアンドレイ・バービンという記者もついていくことになりました。アンドレイは 60 歳の男性で、時々エストニアの雑誌に記事を書っていますが、彼もスポーツマンで、40 回以上もマラソンを走ったことがあるそうです。



友人のエジック

長距離走は、2 月 23 日の 12 時から開始されます。場所は、レニングラード州のビグニーツィ (Бегуницы) という村です。面白いことに村の名前は、ロシア語の「走る」という言葉に似ています。ビグニーツィは、タリン～ペテルブルグ道路の途中に位置しており、タリンから 285km、国境から 73km、ペテルブルグから 80km 離れています。エジックは、その村で 15km の長距離走があることをインターネットで知りました。2 月 23 日は、ロシアの「祖国防衛者の日」で、土曜日でもあったので、私も迷った末に長距離走に挑戦することになりました。

前日の 22 日までいろいろ考えていました。2 人が走って

いる間、1 時間以上かかります。着替えや手続きなどを含めて 2 時間はかかるでしょう。その間、私は何をしていたらいいかと考えて、じゃあ、チャレンジしてみようということにしました。実に言えば、走ることはあまり好きではありません。学校時代を思い出すと、体育の授業で 2～3 キロ走って、死にそんな思いをしたことがあります。日本に留学中は、体力をつけるためジムのランニングマシンで走っていましたが、結局 3 キロ以上走るのは大変でした。ビグニーツィは 15 キロ！そ



アンドレイ記者(左)と必死に走るジーマ君(右)

れの 5 倍も走れるかな、…。昨年、伏田さんと一緒にキョーフ十字架行進で 1 日 40 キロまで歩きましたが、歩くより走る方が大変でしょう。とにかくエジックと相談して、走る用意をして家を出ました。エジックは、私の参加をもちろん喜びました。

夜中の 12 時過ぎにタリンを出発しました。国境を越えるのに 1 時間半もかかり、朝の 8 時頃にビグニーツィに着きました。現地の文化会館に長距離走の組織委員会があり、早い時間でも私たちを歓迎してくれました。少しお茶を飲んで、11 時まで文化会館で仮眠をとりました。11 時に登録が始まりました。参加者は 70 人ぐらいです。みんな番号のついていない T シャツをもらいました。私は 20 番でした。

12 時になりました。外はマイナス 8 度。天気は晴れ。組織委員会からルートの説明があり、ビグニーツィともうひとつの村をつなぐ道を真っ直ぐ走って、7.5km 地点まで行って引き返します。

エジックが「最初から早く走ると後でバテるから、ゆっくりでね」とアドバイス。

スタートしました。参加者は足に自信のある人多そうです。みんなすぐに先に行ってしまいました。エジックも割と先を走っていきます。アンドレイのペースが丁度私にあうことに気づいて、ずっとアンドレイのあとをついて走りました。右と左は永遠の雪の原。たまに、丸太を積んだトラックが追い越

していきます。走っていると寒さも平気です。急に前からエジックの顔が現れました。

「折り返し点まであと少しだよ！」

「ええ？もう 7.5 キロ？信じられないな」

でも、数分後には折り返し点に到達しました。「7.5 キロ走れるのなら 15 キロも走れる！」と急に元気が出ました。

最後の 3～4 キロは疲れがたまり、膝がちょっといたくなりました。でも、ゴールにエジックが待っているのをみたら、勢いを増して、最後までちゃんと走りきることができました。スポーツマンではない私はビリから 2 番目でしたが、そんなに走れたのは自分でも信じられませんでした。

エジックからも、アンドレイからも「おめでとう」の祝福を受け、そしてアンドレイから新しい提案がありました。

『来週の土曜日に、タリンのピリタ川で水泳するけど、一緒にどう？』

15km を走り切った高揚感。すぐに賛成してしまいました。

ピリタ川の競泳大会

エジックとアンドレイと 15 キロ走った 1 週間後、タリンのピリタ川の水泳に 3 人で参加しました。

こ水泳の特徴は水の温度です。外気温はマイナス 10 度ぐらいで、水温は 4 度です。北の国々では、冬に川の氷に穴を作って水浴する習慣がありますが、今回は水に入ってすぐに出るのではなく、最低 25 メートルを泳ぐのです。またチャレンジ！

競泳は「PIRITA OPEN」といいます。ピリタとは、首都タリンを流れる唯一の川です。長さは 100 キロぐらいで、フィンランド湾に注いでいます。河口には、1980 年のモスクワオリンピックで作られたオリンピックセンターのヨット・クラブがあります。センター近くの川の氷を切り取って、長さ 25m のプールを作って、そこで競泳が行われました。



大会の記念バッチ

3 月 2 日の土曜日、朝 9 時。エジック、アンドレイと他の友達と一緒に会場に着きました。25m のプールには 4 つのコースがあります。プールのそばには 50cm ぐらいの分厚い氷の板が積んであります。プールの水は 10 分もすると氷結しはじめるので、スタッフはショベルで凍らないように水をかき回すのです。参加者は多く、エストニア、ロシア、フィンランド、イギリス、ドイツ、ノルヴェーなど各国から来ています。年齢も 10 歳から 75 歳までとまちまちです。この競泳大会は、

2010 年からもう 4 回目を数えます。



私自身は、冬に水浴したこともあり、泳ぐのも好きですが、冷たい水で泳ぐのは初めてです。25m はたいした距離ではないですが、この大会には 50m 競泳も、そして信じられないことに 450m の競泳もあります。ですが、25m でも結構なストレスです。リストによると、私は 25m 競泳の男性 4 組の 3 番コースになっています (エジックは 1 組、アンドレイは 60 歳なので一番最後の組でした)。

着替えて、準備をしました。競技の開会式の様々なスピーチで待たされて、もう服を着たままでも少し寒くなりました。私の組の番がきました。プールに向かいます。「服をぬげ！」の号令で服を脱ぎます。階段を下りて水の中には入ります。

さむううう～い！

けど、しかたないです。水の中でスタートの合図を待ちます。

スタート！泳ぎだしました。1 番と 2 番はスポーツマンのように、結構早く泳ぎますが、私の右のコースの人はそんなことなさそうです。私の方が速い！

ゴール！プールを出ると、すぐに私の服が入った箱をスタッフが持ってきてくれました。お湯の入った桶の中からエジックが叫びます。

「こっちへ早く！」

湯の桶に入って、温まります。快適！

数分後、隣にある「サウナバス」には入ります。サウナの窓から外も見ることができます。いかにもベテランといったフィンランド人のお婆ちゃんに「頑張ったね」と誉められました。結果をチェックしたら、私は 48 位でした。ちょっと不本意ですが、初めてなのでそれでも十分です。

競泳のあと、エジックとアンドレイと話します。

「次はどうしよう？」

「8 月 10 日、ナルヴァでハーフ・マラソンが行われるそうです。参加しますか？」

21 キロを走るのには、やはり準備が必要ですね。では、少しずつ準備をしましょう！

レイゴ・アイス・ミュージック・フェスティバル

毎年 2 月に、エストニアでアイス・ミュージック・フェスティバルが行われます。レイゴ (Leigo) とは、もともと小さな湖の名前です。その湖から取り出した氷で 150 人ぐらい入るコンサート・ホールを造って、数日間の音楽祭典を開くのです。場所は、南エストニアにある、「エストニアの冬の首都」と呼ばれるオテパ (Otepää) という町です。タリンから約 230km 離れており、ロシアのプスコフとラトビアに近いところです。



オテパではウィンタースポーツのイベントがよく行われます。たとえば、2010 年にはバイアスロンヨーロッパ選手権がここで行われました。多くのエストニア人はオテパでスキーなどを楽しみます。

今年のフェスティバルは、2 月 15 日から 23 日まで行われました。コンサート・ホールは氷で作られているので、印象深いですが、中はとても寒いです。座席も氷でつくられており、あまり長くは座れないですね。温かい服とズボンを着て、15 分に 1 杯は強い酒を飲まないで温まらないほどですが、とても楽しいです。

私は、今回は音楽家 (歌手・ピアニスト) としてこの祭典に参加しました。マリヤとオリガという 2 人のロシア民謡歌手と 3 人で 2 月 21 日にタリンからオテパに行きました。コンサートは、19 時に始まります。車の中で熱いお茶を飲んで開演を待ちます。1 時間前から準備が始まります。ホールの外に、氷や雪のあっちこっちにろうそくを立てて、不思議な幻想的な世界が出来上がります。舞台を含めて、ホールの壁には氷の彫刻が刻まれています。舞台の上には氷のクリスマスツリーが立っています。お客さんがホールに入ってきました。開始の合図で舞台に出ました。

オテパはタリンと比べると、海から遠いので 5 度ぐらい寒

いです。その日はマイナス 13 度でした。歌うと、口からもちろん蒸気が出ます。ピアノを弾くのもそのままでは大変なので、指先に穴があいた手袋をはいて弾きます。でも時間とともに指が凍ってきます。普段のコンサートは 1 時間から 1 時間半やりますが、今回は 20 分毎に 15 分の休憩が入ります。休憩中は、コニャック、イエーガーマイスターを飲みました。できるだけリズムの早い、お客さんが動きやすい、踊りやすい曲を選びました。もちろん、全世界でおなじみの「カルinka」や「トロイカ」なども楽しく歌いました。外国人の観客が多かったので、イタリアのオペラも少し入れました。



約 1 時間でコンサートは終了です。音楽とアルコールだけではそれ以上温まらないのです。コンサートのあとは、最後のイベントである花火を見てから帰りましょう。

私たちは来年も招待されていますので、喜んでまた参加したいと思います。

沼田元氣さんに行く

ロシアのかわいい 発見の旅 2013 初夏

マトリョーシカの歴史探訪と工場見学

日程：2013 年 6 月 27 日～30 日 (4 日間)

行程：成田～モスクワ～セルギエフ・ポサード～モスクワ～成田

参加費：165000 円

「又マおじさん」こと沼田元氣さん (マトリョーシカの第一人者) が同行します。

マトリョーシカ発祥の地であるモスクワ郊外のセルギエフ・ポサードを訪問、マトリョーシカ工場の見学や絵付け体験、直売所での買い物など、たった 4 日間だけど、とても充実した旅です。

締切：5 月 20 日

問合せ ⇒ JIC 旅行センター(株) 03-3355-7295

E-mail: jictour@jic-web.co.jp

エクメネの最果てへ

—サハ共和国 冬の旅—

【第14回】 岡本 健裕

【前号までのあらすじ】

この連載も、始めてから丸 4 年が経ちました。今やほとんどの読者をご存知ないであろう、この旅行記のあらすじを、簡単におさらいしておきましょう。

時は 2009 年 1 月のこと、ロシア連邦サハ共和国のヴェルホヤンスクという小さな町に、私たち一行は訪れています。ヴェルホヤンスクは、世界一寒い町のひとつです。どうかして一度、真冬のこの町へ行ってやろうと飛び出してしまった筆者は、日本の新聞記者さん、現地の旅行会社スタッフ、地元の運転手さんを巻き込んで、旅を続けています。

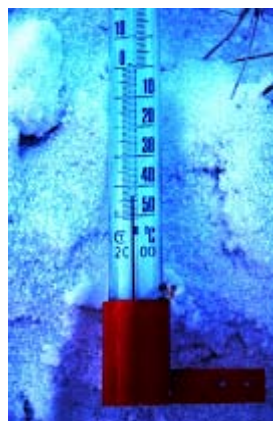
しかし期待は裏切られっぱなしです。まず、マイナス 30℃ 程度という、世界一には程遠い凡庸な寒さ、もとい暖かさに困惑しました(連載第 4 回)。それから、極限の地には予想外と言うほかない、洗練された文化発信力を見せつけられ、たじろぎました(第 6 回)。300 人もの子供たちが学ぶ学校、そこで提供されるあまりにも高水準な教育に、ため息が出ました(第 8 回)。元気いっぱい食用馬の群れが暮らす牧場に支えられ、見事に自立した食料供給体制をみて、羨ましく思いました(第 10 回)。そうするうちに、自分たちがいつの間にか町中の人から歓迎されていることに気づいて、幸せになりました(第 12 回)。そして、ヴェルホヤンスク最後の夜に現れたオーロラ…。オーロラは私に言いました。「お前には本当の寒さだけは体験させてやらないよ。悔しかったらもう一度来なさい。」(以上あらすじ。一部大幅に脚色しています。)

*

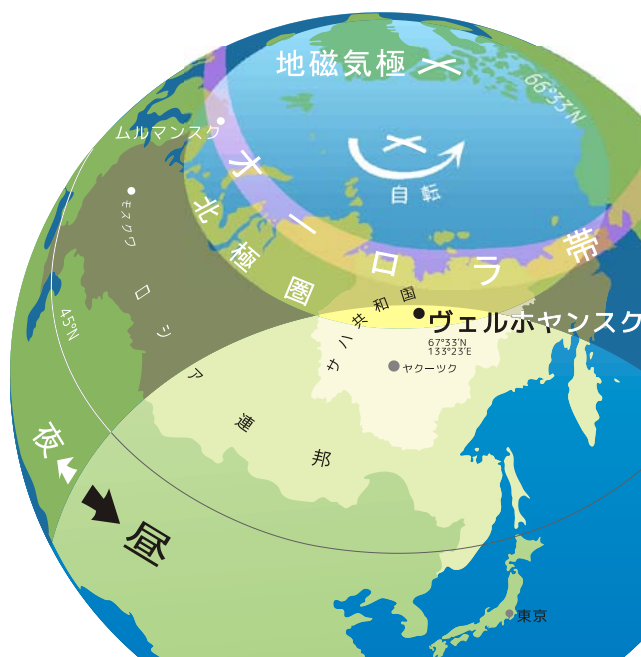
*

*

目を覚ましました。今日は 2009 年 1 月 15 日、ヴェルホヤンスクのホテル「寒極」出迎える最後の朝です。何だか悔しい気持ちで窓の外を見やりました。そう、まだ本当の寒さを経験していないのです。せっかく世界の寒極ヴェルホヤンスクに来たというのに！ 時刻は 8 時台、日は昇っていませんが、十分明るくなっています。階下で人の動く気配がしました。すでに新聞記者のオオ



—50℃までもう少し



ノさんは活動を始めているようです。行ってみましょう。

特殊防寒着(第 3 回詳述)に身をまとい、フェルトのヴァーレンキ(同)を履いて外に出ると、玄関先でオオノさんが温度計を見つめていました。「40℃以下になってますよ。」急いで私も目盛りを覗き込みます。「本当だ！」温度計は確かにマイナス 44℃を指しているのです。あこがれの 50℃台まで、あともうちょっとではないですか。

しかしどうにも、しばらく見つめていても、それより低温になる様子はないのでした。ちなみに皆さんはご存知かもしれませんが念のために言っておきますと、マイナス 40℃台というのは一応、それだけでも十分に寒いのです。20 分も 30 分も屋外で温度計を見つめているのはあまり思慮深い行動とは言えませんが、朝食を摂りにホテルへ戻りました。後でもっと寒くなるといういな。

では、大変ご無沙汰です。恒例の、そしてこの連載最後の(泣)、メニュー紹介です。

■2009 年 1 月 15 日の朝食

1. 肉団子の自家製スープ(суп с фрикадельками)
2. ブリヌィーの肉詰め(блины фаршированные с мясом)
3. ゆでた仔馬肉(мясо жеребятины отварная)
4. 黒パン(хлеб)
5. 紅茶+ミルク(чай с молоком)
6. 紅茶+砂糖(чай с сахалом)
7. コーヒー(кофе)

<お待ちかねのメニュー解説>

1. 透き通ったスープに肉汁がたっぷり溶け込んだ元気のでる一品です。具の肉団子は何の肉か尋ねませんでしたが、おそらくは馬肉です。それは当地で手に入る 2 種類の肉の

うち、ウサギとは明らかに違うから、という消去法で導いた結論です。うまいです。

2. ブリヌイーは結構有名なロシア料理のひとつなので、ご存知の方も多いことでしょう。ロシア風のクレープです。ただし甘いものばかりではなく、魚やキャビア、イクラなども好んで包んで食べます。今朝のメニューは肉包み。これもおそらくは馬肉です。うまいです。

3. 出ました、肉です。ただひたすらお肉です。お皿に山のように盛られた、仔馬のゆで肉を、お好みで少量塩をつけたりしながらいただきます。これぞヤクート人の主食、最も基本の栄養源です。一般的な日本人の胃袋にはまず食べきれない量がふるまわれます。うまです。

4. ロシア式の黒パンです。ちょっとほっとします。

5. ティーバッグの紅茶か、インスタントコーヒーです。そう言えば、紅茶に入っているミルクは馬の乳なんですか。しまった、聞くのを忘れました。

2 泊 3 日お世話になったホテルの食堂には、片隅にずっと馬乳酒のクムイス(ロシア語: КУМЫС ヤクート語:



КЫМЫС) が置いてありました。ペットボトルに詰められて、きれいなデザインのラベルが貼ってあります。惜しいことに私はアルコールを摂取する

ペットボトル入りクムイス

と少々頭の回転が鈍る性質なので、このクムイスには特別の注意を払っていませんでした。しかし、改めてよく観察してぶったまげました。ヴェルホヤンスク製なのです。

ここへ来る前、サハ共和国の首都ヤクーツクでもクムイスを飲みました。ヴェルホヤンスクへ来てからも、学校の儀式でクムイスをいただきました(第 8 回)。およそサハ共和国内では、馬を飼い、食しているところにはどこでもクムイスが造られている、との認識で間違いないんだと思います。そしてこれが大都会ヤクーツクなら、ペットボトル入りクムイスが製造されていてもちっとも驚いたりはしません。でもここは、人口 1,300 人にも満たないヴェルホヤンスクです。世界一寒い町なのです。そこで醸造されるクムイスはきっと、サマゴン…失礼、どぶろく的な、ラベルも何もない容器に入った妖しげな飲み物であるはずだったんです。だから私は、食堂の片隅にたたずむクムイスを見ても、どうせヤクーツクあたりから購入した大量生産品なんだろうな、なんて勝手に思っていたのです。それがまさかヴェルホヤンスク製だなんて。こん

なに小洒落た、使い捨てボトルの商品を世に出す製造業がこの隔絶環境で成立しているだなんて…。ショックで目が回りそうです。だってそうでしょう、このクムイスを安定的に販売するためには、いかに軽量とはいえ、空っぽの新品のペットボトルをはるか遠くから仕入れ続けなければいけないのですから。

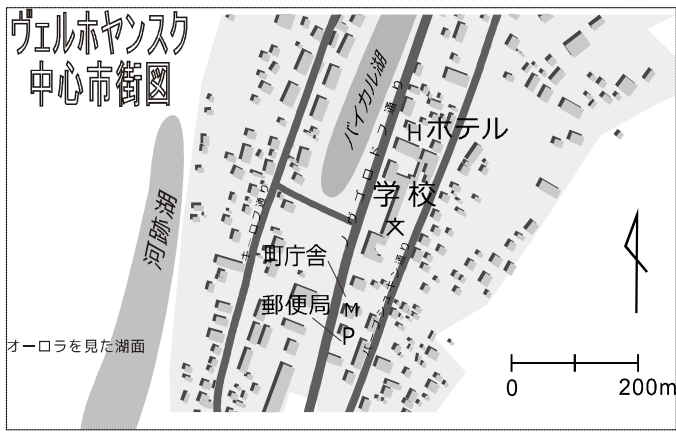
類似の例を考えると、他地域との隔絶の度合いで比肩しうるものは、私は日本の小笠原諸島くらいしか思いつきません。小笠原諸島の父島では、ラム酒が製造されているのですが、そのボトルは、再使用しないワンウェイびんです。というのも、このラム酒は大半が島外への土産として消費されていくので、再使用できるリターナブルびんを使ったところで、空のボトルが製造元に戻ってくることは、まず期待できないからです。(他方、沖縄の泡盛は、かなり小規模な離島の醸造所でも、多くはリターナブルびんに詰められています。島内需要が旺盛なので、ボトルがちゃんと循環するのですね。)ただし、父島にはかなり立派な港があることを見落としてはいけません。周囲およそ 1,000km 前後、外界から隔てられた小笠原であっても、実は大型の船舶で新品のボトルを大量に直接仕入れることができるのです。

ヴェルホヤンスクはどうでしょうか。外界からのアプローチに要する長い長い道のりは、連載初期に触れた通りですね。物流事情はさらに過酷です(第 11 回参照)。どんなルートを駆使しても、この町は立派なインフラなどとは縁がありません。

そんなヴェルホヤンスクで、しかし確かに造られているペットボトル入りクムイス。無駄遣いとも思える労力の影を見てしまうと、気が遠くなりますが、でもおそらく、ヴェルホヤンスクはその程度のことは何とも思っていないのです。きっと大した執念もなく、よし造ろう、と思って造ってるだけなんです。2 泊 3 日の間というものの、物質と都市の概念、距離と空間の感覚、自然と生命の価値観、全てひっくり返すようなことばかり体験させてくれたこの町のことから、そうとしか考えられないのです。資本主義のコスト意識では決してありえない、かと言って社会主義ソビエト的でもない、もっと別の知性が生み出した、別世界の日常風景がまだまだ底知れず隠されている。何と恐ろしい町でしょう、ここは。

朝食を終えると、地元の運転手のアナトリーさんが迎えに来ました。ヤクーツクから同行している旅行会社スタッフのサルダナさんの説明によると、今日最初の予定は、町長表敬訪問です。

そうです、ヴェルホヤンスクは「町」、すなわちロシア語で「ゴラド(город)」で、町制が敷かれていましたね(第 6 回参照)。人口わずか 1,300 人未満だというのに、立派に一個の自治体で、ちゃんと町長さんがいるのです。では、さっそく町庁舎へとまいりましょう。



アナトリーさんの運転するウアズ(ロシア製四輪駆動車)は、10 秒ほどのドライブで目的地に着きました。それもそのはず、町庁舎はホテルから 3 軒目のご近所だったのです。1 軒目が学校、3 軒目が町庁舎、ちなみに 4 軒目は郵便局(連載 11 回詳述)です。もう全く、歩いて来てもよかったのですが、「表敬訪問」という言葉には、徒歩では何となく恰好がつかない見栄っ張りなところがあります。それに何よりも、もうアナトリーさんを持ち無沙汰にするわけにはいかないのです。私達 4 人(筆者、オオノさん、サルダナさん、アナトリーさん)はいまや分けがたいカンパニヤ(仲間)になったのですから。

町庁舎は一戸建て住宅サイズの平屋の木造建築で、外壁はきれいにペンキが塗られています。中に入ると、数人の女性職員がお仕事中。よく見るとここはロシア貯蓄銀行(スベルバンク)の出張所も兼ねているようです(ただし ATM はありません)。私達はそのままずっと奥の部屋に通されました。そこで出迎えて下さった初老の男性は普段着に身を包んだ気さくな雰囲気です。この方こそが、ロシア連邦内の首長の中でもぶっちぎり最少の人口単位を率いる、ヴェルホヤンスク町長、チリコフさん(Чириков, Дмитрий Павлович)でした。

「どうしてこの町へ来ましたか。」

のっけからチリコフ町長にこう言われて一瞬うろたえてしまいました。この人は、世界一寒い町へようこそ、みたいなつまらぬ歓迎の台詞は一言も口にするつもりはないのです。気に入りました。これこそリーダーの気概というもの。でも、やりにくい。

「世界の寒極へ行きたかったからです。」

初めに牽制されてしまったので、正直にこう答えるのが気恥ずかしくなりません。だいたい、しゃくではありませんか。どうせそうに違いないと見透かされているのです。それでつい、こんな言い訳を追加してしまいました。

「日本では、ヴェルホヤンスクは、ただ寒いところ、という点でのみ、知られています。寒さ以外の情報は何もありません。だから、そこにどんな町があつて、どんな人々が、どの

ように生活しているか、直接見たかったのです。」

すると当然、チリコフ町長はこう聞いてきます。

「それで、ヴェルホヤンスクに実際に来て、どう思いましたか。」

「寒極らしい寒さは残念ながら体験できませんでしたが、文化や教育や人々の生活がこれほど豊かだとは知らなかったので驚きました。」

ああ、我ながら何て月並みな返事。もっと気の利いたことが言えるようになりたい。

「あなたは旅行会社の社員だそうですね。これから日本人の旅行客がヴェルホヤンスクに来るようになると思っていますか。」

「なると思います。世界一寒いところ、というだけでも興味を持つ人はいるのです。しかもヴェルホヤンスクはただ寒いだけの町ではありません。そのことは全く知られていませんが、うまく宣伝できれば、実際に来ようという人はきっと増えると思います。」



町長のチリコフさん(右)から証明書をもらう

チリコフさん、私を一介の観光客としてあしらう気はまったくありません。次から次に手加減なしの質問が飛んでくるので、私はもう冷や汗ダラダラ。ロシア語もだんだん怪しくなってきた、見かねたサルダナさんが助け船を出してくれる場面が何度もありました。でも、それほどまでにこの町長は、私達のことを、ヴェルホヤンスクの将来と一緒に考える仲間と真剣にみなしてくれているのです。うれしいじゃないですか。

事実、私は感動したのです。この町の、寒さ以外のあらゆるものがすばらしかった。そしてこの町のリーダーの態度にも敬服しました。彼は「寒極」というそれなりの(そして外部から見れば唯一の)ネームバリューにも一切頼ろうとせず、この町の観光資源に価値を見出してもらおうとしています。あ、もしかして昨夜、オーロラのふりをして夢枕に立ったのはチリコフ町長だったのかな。まさかね(笑)。

それでも最後に町長は、「一応」世界一寒い町の代表者らしきサービス精神を発揮しました。きれいな「寒極訪問証

JICインフォメーション第175号(1995年5月29日第3種郵便物認可)明書」を発行してくれたのです。ふんだんに写真が使われていて、旅情たっぷりのデザインに、ロシア語と英語でこう書かれています。

証明書

2009年1月14日オカモトタケヒロ君は北半球の寒極、ヴェルホヤンスク町を訪れたことを証明する。当地は1892年2月5日から7日にかけて、マイナス67.8℃を記録した。

サハ(ヤクーチア)共和国ヴェルホヤンスク町

ヴェルホヤンスク町長 D. P. チリコフ〈署名、スタンプ〉

私はこのとき決意を新たにしました。日本に帰ったらきっと、ヴェルホヤンスクをなるべく広く国内に紹介しよう。やるからにはせめて、日本語では世界一詳しい(マニアックな?)水準のヴェルホヤンスク情報を発信しよう。それが、この愛すべき町と、この旅行に協力してくれた方々への私なりの義理の通し方なんだと。そんなわけで、今もだらだら続けているこの連載は、読者のどなたかが、将来いずれサハ共和国やヴェルホヤンスクへの旅行者となってくれることで、報われます!

町長さんとお別れして、とうとう、ヴェルホヤンスクを離れる時が迫っています。それは寒冷地ならではの特殊な道に行く旅になる予定です。そう、覚えておいででしょうか、ここへ来る時は「山の道」を使いましたが、他にも「川の道」があったのを(第4回)。

では、次回、モノクロに彩られたヤーナ川の上でお会いしましょう。〈続く〉

ロシア文化フェスティバル2013 今年のオープニングは6月3日!



今年で8年目を迎えるロシア文化フェスティバル(ロシア連邦外務省・文化省主催)は、6月3日に東京でオープニング・セレモニーが行われます。

今年は、全ロシア音楽コンクール優勝者コンサート、プーシキン美術館展、トレチャコフ美術館展、モスクワフィルハーモニー交響楽団、モスクワ・クラシックバレエ団、バシキール民族舞踊団など、45本の多彩なプログラムが予定されています。JICも秋のロシア・セミナーなど文化フェスティバルの一角を担っています。



《2013年の主なプログラム》

■プーシキン美術館展

4月26日～6月23日 愛知県美術館

7月6日～9月16日 横浜美術館

9月28日～12月8日 神戸市立博物館

■全ロシア音楽コンクール優勝者コンサート

5月17日 東京・日経ホール

■モスクワ・フィルハーモニー交響楽団

6月16日～30日、神戸・帯広・札幌・水戸・松戸・伊那・東京・高知・北九州・佐賀・鹿児島・大阪

■ロシアバレエアカデミーTOKYOコンサート

8月25日 東京・ゆうぽうとホール

■ポリショイサーカス公演

7月13日～9月1日 静岡・東京・横浜・千葉・名古屋・京都

■ロシアナショナルバレエ公演 9月下旬～10月上旬

■バシキール民族ダンス

10月10日～13日 東京・茨城・千葉・静岡

■マトリョーシカ大博覧会 10月 仙台市



4~7月の予定

4 月 9 日 JIC 東京 ロシア語講座 前期スタート!
中級①(火) 中級②(水) 初級(木) 時事会話(金)

4 月 15 日 JIC 大阪 ロシア語講座 前期スタート!
上級(月) 初級(火) 入門(水) 中級(木)

最新情報は JIC のホームページに
随時掲載いたします。ぜひご確認ください!!!

◆◆編集後記◆◆

▲例年になく寒い冬が過ぎたと思ったら、早くも 3 月下旬に桜が咲き、あっという間に 4 月を迎えました。今年の春(3 月~5 月)はロシアからの訪日旅行客がようやく回復し、インバウンド部は久しぶりに繁忙期を迎えています▲一方、夏の旅行シーズンを前に、ロシア旅行や留学の問い合わせも増えています▲JIC ではこの春に 3 名の新顔を迎えました。▲ロシア語留学、ロシア語講座、ロシア旅行を通じて、ロシアと日本をつなぐ架け橋をより広く、より強くしていきたいと思ひます(伏)

* * JIC のロシア語留学・研修 * *

ロシア長期留学 9 月生・募集中

期間: 2013 年 9 月より 10 ヶ月

※ウラジオストク極東連邦大学は 10 月より 10 ヶ月

締切: 2013 年 6 月 15 日(金)



モスクワ国立大学 447,000 円(授業料 10 ヶ月)

サンクト・ペテルブルグ国立大学 590,000 円(授業料 10 ヶ月)

ウラジオストク極東連邦大学 338,000 円 (授業料 10 ヶ月)

※上記の金額以外に別途、寮費、手配料、渡航費用、ビザ代金及び取得手数料などががかかります。

ロシア語個人・グループ研修(随時募集)

- ☆モスクワ・ダリパス社 1 週間~4 週間 (ホームステイ 3 食付)
- ☆モスクワ大学 2 週間~長期 (ホームステイ朝食付/大学寮)
- ☆ペテルブルグ大学 1 ヶ月~長期 (大学寮/ホームステイ/ユースホステル等)
- ☆ウラジオストク極東連邦大学 1 週間~長期(ホームステイ 2 食付/大学寮)
- ☆ウラジオストク経済サービス大学 1 週間~4 週間(ホームステイ 2 食付き)
- ☆ハバロフスク外国語教育センター GEO (ホームステイ 2 食付)

ロシア語個人・グループ研修(随時募集)

リデン&デンツ スイスの会社出資のロシア語学校

個人・グループレッスン。モスクワとペテルブルグにあり、インターナショナルな雰囲気。初心者より上級者まで。2 週間より可能。基本はホームステイ 2 食付。詳細はパンフレットをご覧ください。



デルジャーヴィン・インスティテュート

全ロシアプーシキン博物館の協力によりペテルブルグに設立された学校で、18 世紀の建物内で授業が行われます。アットホームな雰囲気でお勧めです。グループレッスン、1 週間より可能。基本はホームステイ 2 食付。詳細はパンフレットをご覧ください。



◆JIC ロシア留学デスク◆

ロシア留学・旅行のお問合せ・ご相談に応じます。
お気軽にお越しください。

東京事務所 平日 10-18 時 03-3355-7294/7295
大阪事務所 平日 10-15 時 06-6944-2341

※事前にご予約ください

留学・研修各種パンフレットは JIC へ
ご請求ください。留学・旅行相談お気軽に

~Jクラブ (JIC 友の会) のご案内~

JIC インフォメーションを年 4 回、また JIC のイベント案内をもちろんお届けします。
ご希望の方には入会案内をお送りいたしますので、ご連絡ください。会費は無料です。
国際親善交流センター